

令和6年度 宅地建物取引士試験 解答速報

2024年10月20日(日)19:40現在

問1	1	問11	3	問21	1	問31	1	問41	1
問2	4	問12	3	問22	4	問32	3	問42	2
問3	3	問13	1	問23	2	問33	3	問43	4
問4	4	問14	3	問24	2	問34	3	問44	1
問5	2	問15	4	問25	3	問35	2	問45	2
問6	4	問16	1	問26	3	問36	4	問46	1
問7	1	問17	2	問27	4	問37	3	問47	4
問8	1	問18	2	問28	2	問38	4	問48	1
問9	2	問19	3	問29	4	問39	4	問49	2
問10	4	問20	2	問30	4	問40	2	問50	3

TAC合格推定点は**35±1点**です。
※次ページの講評もご覧ください。

※当解答速報はTAC独自の予想であり、解答及び合格推定点を
保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合も
ございます。

※この解答速報の著作権はTAC株式会社のものであり、無断転載・
転用を禁じます。

TAC宅建士講座

令和6年度 宅地建物取引士試験 講評

【全体】

- 令和5年度の宅建士本試験と比較して、ほぼ同レベルの難易度となった。全体の合格ラインもほぼ同レベルと思われる。

【民法等】

- 出題の形式面では、昨年の本試験と同様、個数問題が1問出題されたが、判決文型の出題はなされなかった。その代わりというべきか、民法の条文自体をテーマとする問題が1問出題された。
- 出題されたことのない分野からの出題もあり、出題形式もオーソドックスではないものが散見されたが、「民法等の問題は難しい」との予想の下、基礎力をしっかり身につけている受験生にとっては、何とか正解を導いたようである。民法等全体の合格ラインは、例年程度と思われる。
- 合格ラインは7点程度。

【宅建業法】

- 難易度は、昨年とほぼ同様。
- 個数問題は例年より少なく3問。組合せ問題は2問出題された。
- 問28の報酬計算で消費税免税事業者が出題されたのは意外だった。宅建士証の住所欄へのシール貼付の許容や旧姓の併記などT A Cの答練でお馴染みだった。
- 合格ラインは17点程度。

【法令上の制限】

- 基本・応用論点を中心とした「主要6法令」からの出題であった。
- 建築基準法2問のうち1問は、過去問にない未出題論点が含まれており、解答は難しかったと思われる。
- 改正後初出題となった「盛土規制法」は、「宅地造成等工事規制区域」と「特定盛土等規制区域」の両方が出題された。
- 国土利用計画法は「事後届出制」と「事前届出制」の両方が出題された。
- 個数・組合せ問題は出題されなかった。
- 合格ラインは5点程度。

【その他関連知識】

- 問23～25のうち、問24（不動産取得税）の免税点は、しっかり確認していた人は解答ができたと思われるが、問23（住宅ローン控除）は、細かな論点の選択肢が多く、正解が絞りにくかった人が多いと思われる。不動産鑑定評価基準は、過去問などから正解肢が明確に判断でき、ほとんどの受験生が正解できたであろう。2問の正解は確保したい。
- 問46～50は、概ね平易な問題で正解肢の絞り込みは比較的し易かった。問50は、細かな論点の出題であったが、正解肢の記述表現から解答できた人は多いだろう。
- 8問トータルで見ると、例年とほぼ同じで点数は取りやすかった。
- 合格ラインは6点程度。

以上